

問答連 瓦版

その二五

第五期 哲学カフェ

2回 六月二二日 二時から

人間には、人間を超えるものが必要？

必要でない？

発題者 永井良和さん

現代の日本の社会では、基本的にいろいろなことを、人間を基準として考えます。これをユマニズム（人間中心主義）といいます。

たとえば、民主政治は、一人一人の人間の意志をもとに政治的な決定を行うしくみです。昔は、「神様」の意思をもとに政治的な決定をすることもあったかもしれませんが、今の日本では、そういうことは考えられません。そう考えると、今の私たちは、人間を超えるものなど、必要ないと考えているように思えます。でも、私たちは、一方で、大地震の時のように、人間の無力さを思い知らされるのが、しばしばあります。「自然」は、人間によって観察され、科学技術によつて操作されますが、「自然」そのものあるいは、「大宇宙」は、人間が作ったものではありませんし、人間のコントロールを超えた力をもっています。また、正しい生き方をした人が苦しんだすえに殺されたり、愛する人が、なんの理由もなく事故でなくなったり、人間の世界には、とても納得したり、受け入れたりできないことが山のようにあります。

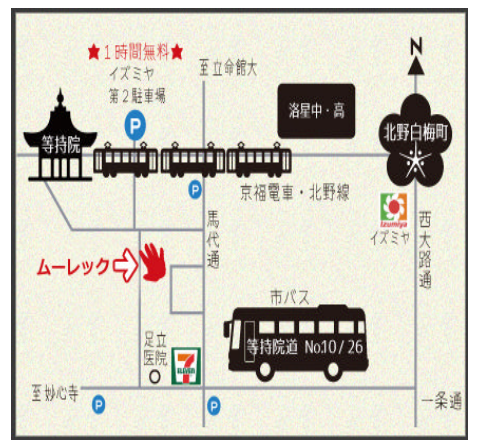
日本人の多くが、信仰を持たないといわれながら、神社にお参りしたり、お葬式には、お坊さんにお経をあげてもらうのは、なぜでしょうか？

やっぱり、どこかで、人間は、人間を超えるものを求めているのでしょうか？今の若い人にとって、ネットの世界が、このような役割をはたしているように感じる時もあります。あるいは、日本の文化の底には、自然の風景や季節の移り変わりに、人間の力を超えたものを感じとる性格があるのかも知れません。

それは果たして日本人だけのことなのでしょうか。人間にとつて普遍的な問題なのでしょうか。いろいろな人の考えを聞きながら、話し合ってみたいと思います。



祈り



J R 京都駅から 市バス（26）『等持院道』
市バス（205）『北野白梅町』
京阪三条駅から 市バス（10）『等持院道』
市バス（16）『北野白梅町』

会場案内

ワンドリンク（五百円程度）を
お願いしています。
お問い合わせは、075-462-3311まで。
ただし水・木曜日は定休日です



哲学カフェ 今後の日程

3回 七月二七日

人はどうして言葉を話すようになったのだろうか？
大江矩夫さん（世話人）

4回 八月二四日

学校唱歌とわたしたち なつかしさとあやうさと
中西光雄さん（ゲスト）

5回 九月二八日

〈差別〉から〈自由〉を
中島勝住さん（ゲスト）

第一回 まとめ

いつ大人になったのか

—こどもと大人の境界—

【発題者 野崎康夫さん】から

テーマ「いつ大人になったのか」を選んだ理由は、村瀬学の『13歳論』に触れたことがきっかけでした。そこには「大人の年齢を13歳にすべきではないか」ということが縷縷書かれていました。一三歳といえば小学校を卒業したばかりの中学一年生です。まだ世間の右も左も分からない若者を「大人」とするということは暴論ではないかと感じました。

村瀬は今の日本では子どもをいつまでも子ども扱いにすることで、子どもが大人になることを否定している、あるいは先延ばしに（モラトリアム）しているといえます。私たちの常識を問い直す問題提起でした。しかし、村瀬の議論を受け入れたとしてもいくつかの疑問が残ります。一つは、「大人の条件」とはなんだろうか。二つには「今日から大人です」といわれても、無防備に大人を宣言することはできません。三つめは、「大人になる」ための準備は必要ないのだろうか、あるとすれば誰が準備するのか、ということですが、そこで「あなたは、いつ大人になったのと感じていますか。またその理由はなんですか」を皆さんに尋ねてみようと思いました。結果は、実に様々な経験から話がありました。また、「未だに大人になったとの実感が無い」という話もありました。実に深いテーマでした。

【参加者のみなさんから】

大人になるとは？という話題で、非常に幅広いことが話されたと思います。大人とは？子供とは？という問いはとことん深いと思いました。倫理、制度、文化…。現代社会のゆくえ。もう一度、又、話し合いたいですね。

社会的には転職をくりかえし安定した収入や居場所のない生き方をしていたので、大人になっていく感じがなかつたのですが…。その分、人のつながるコミュニティにあこがれかわつたり自分でつくったりして「対話のできる場」の重要性を実感しています。他人のことはちゃんと受け入れ、自分のことをうまく伝えられることが大人の条件の一つなのかなと、今少し思い始めています。今回のトークではモラトリアムの大切さ再認識しました。いろんなことを試行錯誤し味わう事それこそが他者理解につながる一つの経験と思えました。（モラトリアムとは本来は金融用語で支払いの猶予をいいますが、心理学者のエリクソンは青年が大人になることを猶予する期間として考えました）

対話の中で大きな気づきは3点ありました。大人になるというのは、自立し、責任を果たしていくことが大事になると思っていた。しかし、もう一つ成熟すると、責任を周りに分散しつつ、社会の中で共有していくということ。それが大人になるということではないか、という話は興味深かったです。一つは、大人になる、というのを2つに類型化されたこと。一つは、組織や会社など、

移動性が高い世界において、比較的目的をもって形成された社会の中で、大人になるということ。そしてもう一つの大人論は、人間関係の観点で、相手を気遣うなど大人として姿勢を持つていること。この2つの観点で大人性を対話していったのは興味深かったです。もう一つは、子供から大人への成長になるのに、個人側にすべての責任を取らせているという観点。本来、大人になるには、個人が大人へのスキルや姿勢、態度の取り方、など学んでいくことと、社会が個人を受け入れる準備をきちんとしなければならぬ。ただ、現在は、社会が準備をせず、大人になることをすべて個人責任に負わせているという点でした。ここに気づいたのは学びが多い哲学カフェでした。

本日は暑い一日でした。でも、落ち着いた和室は快適空間で、皆さんの貴重な話が聞けました。「大人になるってどうということ？」今まであまり考えたことのないテーマだったので、いろいろ自分の人生についての反省ができました。昔は「家」系を守るというのが大人の義務・責任だったでしょうが、わたしは次男なのでその点では、「大人になる」ことを全く考えず自由人でした。やはり、「大人になる」ことは何らかの社会的義務・責任を考えることが必要だと思われれます。私は成人式で「責任」を教えられましたが、就職しても、結婚しても、子どもができて「大人になる」ことを自覚できませんでした。大人になるためには、何かの「けじめ」「自覚」「納得」「identity」が必要だと、今日悟りました。ありがとございました。